

# 狭心症

## 原因

- ・狭心症は発作的に、胸の痛みや圧迫感などの症状を起こす病気です。
  - ・心臓を養っている冠動脈の内部が狭くなることにより、心筋に十分な血流・酸素が送り込めない時に胸の痛みが起こります。
  - ・血管が狭くなる原因の大多数は、糖尿病、高脂血症、高血圧、加齢などによって進行する動脈硬化です。
  - ・そのほか、冠動脈のけいれんも血管狭窄の原因となります。
  - ・狭心症は以下のように分類されます
- 1) 労作性狭心症
    - ・歩行、階段昇降などの身体的な労作、精神的な興奮・ストレスが誘因となります。
    - ・安静にしたりストレスがなくなると、多くは数分で、長くとも15分以内で症状が消失します。
  - 2) 安静狭心症
    - ・労作・ストレスに関係なく起こる狭心症です。
  - 3) 異型狭心症
    - ・冠動脈がけいれんによって一時的に詰まることによって起こる狭心症です。
    - ・労作とは関係なく、夜間、明け方の睡眠中に発作がみられ目覚めることが特徴です。
  - 4) 安定型狭心症
    - ・発作の起こり方が一定している狭心症で、労作性狭心症の多くがこれに属します。
  - 5) 不安定型狭心症
    - ・安定型狭心症と比べ、冠動脈内部に血栓や高度な狭窄病変を認めることが多く、治療を行わないと心筋梗塞へと進展する可能性の高い状態です。

## 症状

- ・代表的な症状としては、胸の奥が痛い、胸がしめつけられる・押さえつけられる、胸が焼けつくような感じなどがありますが、発作的に短時間みられるのが特徴です。
- ・大多数は胸部の症状として現れますが、胃のあたりや背中での痛み、のどの痛み、歯が浮くような感じ、左肩から腕にかけてのしびれ・痛みとして感じることもあります。やはり発作的にみられます。
- ・とくに糖尿病の患者さんは、病変の重症度に比べて、症状を軽く感じる 경우가多く、注意が必要です。

## 急患診療センターを受診するめやす

- ・狭心症の症状が、生まれて初めて起こった場合
- ・6か月以上も発作がなかったのに発作が再発した場合
- ・これまでは安定した発作で会った場合でも、痛みの強さや痛みの放散が増した場合、発作の回数、発作の持続時間が増大したり、軽い労作で容易に発作がみられるようになった場合、ニトログリセリンの効き方が悪くなった場合。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>